

令和元年度 総合戦略事業の実績報告について

平成 27 年 10 月に策定した「津山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(計画期間:平成 27～令和元年度)の達成状況について報告する。

【達成率の算出方法】

- ① 各区分ごとの達成率(数値目標のものについて)

KPI基準値:A

KPI目標値:B

令和元年度実績値(早期終了の場合は最終年):X

$$\text{達成率} = (X - A) / (B - A) \times 100 \quad (\text{単位:}\%)$$

※ なお、達成率が100%以上の場合は100%に、0%未満の時は0%とした。

- ② 基本目標ごとの平均達成率

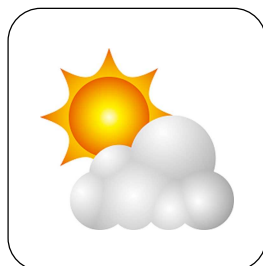
各区分ごとの達成率を平均した。

(達成状況)

	100%～ 80%以上	80%未満～ 60%以上	60%未満～ 40%以上	40%未満～ 20%以上	19%未満～ 0%
平均達成率					

【基本目標Ⅰ】

地域経済を活性化させ、安定した雇用を創出する。



達成	未達成
39	30

平均達成率
72.6%

1. 産業の成長と雇用の創出による「しごと」と「ひと」の好循環への取組

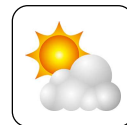
新たな雇用の創出(新規認定農業者の認定、新規就農の推進、地域産業人材育成プログラム、企業誘致等による)については、5年間で累計1,077人と目標値を大きく超えて達成することができた。



(1) 域内外の需要の拡大と產品の高付加価値化による儲かる農林業への取組

【農業】

直売所の年間売上、農業生産法人等の設立については、目標値を超えることができた。つやま和牛、小麦、ブドウなどの農産物は目標を達成できていないが、平均収量の増加や品質の向上など高収益化を図っている。



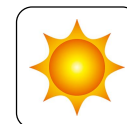
【林業】

地域産乾燥材の使用量については、ほぼ横ばいとなっている。令和2年度に補助制度を拡充し、利用の促進を図っている。美作材の輸出量については、韓国を中心に取組を実施してきたが、国際情勢の変化（日本製品不買運動等）の影響により継続が難しくなっている。



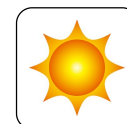
(2) バランスのとれた産業構造の形成と新たな価値の創出によるものづくり

1項目を除き目標を達成することができた。特に、企業支援に関しては、年間600件以上の企業訪問を行っており、企業ニーズに即した人材育成研修や津山まちなかカレッジとの連携講座を実施することにより、企業への人材供給につながっている。また、事業転換や高付加価値化支援にも力を入れている。



(3) 多様な観光資源のブラッシュアップと情報発信の強化による観光振興

ほとんどの事業で目標を達成することができた。特に、ツアーバス誘致台数、観光ホームページのアクセス数、滞在型観光プログラム利用者数は、実績値が目標値を上回っている。また、キャンプ場については、利用者数が伸び悩んでいたが、平成30年度に利用者ニーズに合わせた改修や再配置を行ったことにより、令和元年度は大幅に利用者が増加した。



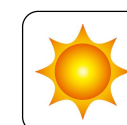
(4) 地域資源を最大限に活用した再生可能エネルギーの普及促進による産業振興

計画策定時は、再生可能エネルギーの主な普及方法を太陽光発電の導入としていたが、売電価格の下落に伴い徐々に導入が減少していった。再生可能エネルギー関連機器の市内消費喚起については、令和元年度から電気自動車など高額な商品に対しても補助を行うという見直しを行った。



(5) 総合的な支援体制による横断的戦略

他支援機関とも連携し、企業支援や人材育成等を実施した結果、全ての事業で目標を達成することができた。



【基本目標Ⅱ】

誇りと魅力を感じるまちづくりで、津山市への新たな人の流れを創出する。

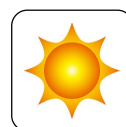


達成	未達成
12	7

平均達成率
80.2%

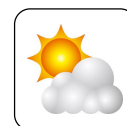
1. 移住・定住策の充実による津山市への人の還流促進

就職促進家賃助成事業を活用した移住者数以外は、全ての目標を達成することができた。ワンストップ窓口である津山ぐらし移住サポートセンターによるきめ細かなサポートや各種支援メニューの充実により、津山圏域外からの移住者数も目標を大幅に上回っている。移住者の家賃補助については、平成30年度までは順調に伸びていたが、西日本豪雨の影響により、平成30年度後半から令和元年度前半の移住者が少なかったため、申請が減少した。



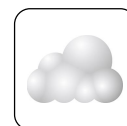
2. 「18歳の崖」の克服に向けた、高校・高専・大学との連携による活性化と学生の定着促進。

地域内就職促進に重要となる学生のインターンシップは目標を達成することができた。また、学生数の減少や就職環境の売り手市場の中、新規学卒者の地域内就職者数は目標をやや下回ったが堅調に推移した。一方、就職説明会等への参加者数については、売り手市場が拡大すると、減少する傾向にあったため、目標に達成することができなかった。雇用情勢を注視しながら、地域内就職の促進に向け、さらなる取り組みを進める。



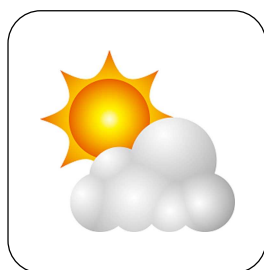
3. 郷土への愛着と誇りの醸成の促進

津山が好きと感じる人の割合が低いのは、アンケート調査を、新型コロナウイルス感染拡大の影響により国の緊急事態宣言が発出されている中で、様々な活動が最も制限されていた時期に実施したことなどの特殊事情も影響したのではないかと考えられる。津山洋学資料館の利用については児童生徒数の減少の影響があり総数は減少しているが、授業の一環としての来館は増加傾向である。各小中学校では、郷土の偉人についての学習や企業見学バスツアーなどを積極的に取り組んでいる。



【基本目標Ⅲ】

若い世代を中心として、結婚・出産・子育ての希望がかなうまちを実現する。

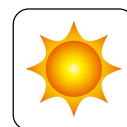


達成	未達成
10	12

平均達成率
72.5%

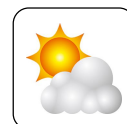
1. 出会い・結婚の希望をかなえるための取組

婚活事業の参加者数、事業参加後に結婚に向けて交際を開始した人の数のいずれも目標値を大幅に超えている。参加者のうち、結婚に向けて交際を開始した人の割合は22～35%程度となっている。



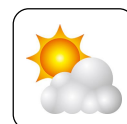
2. 妊娠から出産・子育てが安心して行える切れ目のない支援の充実

地域子育て支援センター、子育て広場「すくすく」の年間利用組数は目標値に達していないが、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響により3月を全て休館にしたことが大きく影響した。また、子育てに関する満足度に関しては、目標値は達成していないが、満足度は上昇している。



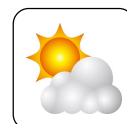
3. 男女共同参画の推進によるワーク・ライフ・バランスの実現

企業におけるワーク・ライフ・バランスの取組に対する認定やアドバイザーの派遣などは、津山商工会議所や作州津山商工会と連携し目標を達成することができた。セミナーや講演会は年10回以上開催し、一定の参加者が確保できているが、目標として設定した出前講座については、男女共同参画に関する依頼が無かったため令和元年度は実施することができていない。第2期では、出前講座に限定せず啓発講座の開催件数に変更した。



4. 子供たちが将来への夢に向かって、いきいきと学び育つ教育環境づくり

全国学力・学習状況調査において津山市の平均はいずれの科目においても、県平均を上回ることはできていないが、県平均との差は徐々に小さくなっている。生活習慣の面で、他市町村に比較して家庭学習時間が短くテレビやゲームなどの時間が長いことが分かっており、家庭や地域の協力も必要である。



【基本目標Ⅳ】

これからの時代に対応した持続可能なまちづくりと地域間連携を進める。

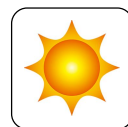


達成	未達成
13	12

平均達成率
85.1%

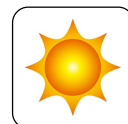
1. 賑わいある機能的で暮らしやすいまちの形成

ほとんどの項目で目標を達成している。平成30年度で終了した中心市街地活性化基本計画事業の成果を受け中心市街地通行量は増加したが、空き店舗への新規出店件数や駅利用者の満足度は目標達成できなかった。



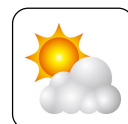
2. 広域連携による個性ある地域づくり

平成29年1月に、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、美咲町と定住自立圏の協定を締結し、連携事業の拡大を図った。年々、事業数も増加している。令和元年度に調整のつかなかった2事業も含めて令和2年度は4事業の協議を行っている。また、岡山市とも連携中枢都市圏を形成しており、事業数も当初の目標を大きく超えて締結している。



3. 共創・協働の地域コミュニティづくり

それぞれの項目において、一定の程度の成果は出ているが、目標を達成することができた事業は無かった。平成30年度に事業の見直しを行い、3事業を廃止とした。今後も引続き、地域運営組織の活動を支援していく。



4. 安全で安心に暮らせるまちづくり

自主防災組織は連合町内会44支部全てにおいて組織化されている。また、市内の刑法犯認知件数も、年々減少しており目標を達成している。旧市内津山地域における、緊急告知防災ラジオの普及率が低いことから、令和元年度より購入手続きを簡素化し、町内会とも連携を取りながら普及を図っていくこととした。

